

ベクトルの一次変換 ワーク (『技術者のための線形代数学』より)

1

次の写像 φ を考える. ※ただし $(a, b, c, d \in \mathbf{R})$ とする.

$$\varphi: \mathbf{R}^2 \rightarrow \mathbf{R}^2$$

$$\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \mapsto \varphi(\mathbf{x}) = x \begin{pmatrix} a \\ c \end{pmatrix} + y \begin{pmatrix} b \\ d \end{pmatrix}$$

実数ベクトル $\mathbf{x} = (x, y)^T$ を標準基底の線形結合で表すと次のようになる.

$$\mathbf{x} = x\mathbf{e}_1 + y\mathbf{e}_2$$

標準基底 $\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2$ の行き先は次のようになる.

$$\varphi(\mathbf{e}_1) = \begin{pmatrix} a \\ c \end{pmatrix}$$

$$\varphi(\mathbf{e}_2) = \begin{pmatrix} b \\ d \end{pmatrix}$$

したがって $\varphi(\mathbf{x})$ について次の関係が成り立つ.

(1-1)

$$\varphi(\mathbf{x}) = x\varphi(\mathbf{e}_1) + y\varphi(\mathbf{e}_2)$$

記号を下記のように整理すると,

$$\mathbf{x}' = \varphi(\mathbf{x})\mathbf{e}'_1 = \varphi(\mathbf{e}_1)\mathbf{e}'_2 = \varphi(\mathbf{e}_2)$$

(1-1) は下記のように書き直すことができる.

$$\mathbf{x}' = x\mathbf{e}'_1 + y\mathbf{e}'_2$$

2

基底ベクトル $\mathbf{e}'_1, \mathbf{e}'_2$ を任意に決めると \mathbf{R}^2 の任意の要素 \mathbf{x} をその線形結合で表すことができる。

$$\mathbf{x} = a\mathbf{e}'_1 + b\mathbf{e}'_2$$

\mathbf{x} に一次変換 φ を適用すると次のようになる。

$$\varphi(\mathbf{x}) = a\varphi(\mathbf{e}'_1) + b\varphi(\mathbf{e}'_2)$$

これは次の手順で証明することができる。

(※いったんここまで 2025-11-16)